

## IV 森林・林業の将来像（数値目標）

# 1 経済林

## ① コミュニティ(集落)林業プロジェクト

### ○県産材生産量の増大

コミュニティ(集落)林業を核としながら、施業地の集約化やきめ細かな道づくりを進め、県産材の生産量を増大させます。

	単位	現在		5年後(H26)		10年後(H31)	
		主伐材	間伐材	主伐材	間伐材	主伐材	間伐材
コミュニティ林業	(千 m <sup>3</sup> /年)	—	—	12	18	24	36
大規模団地	(千 m <sup>3</sup> /年)	8	18	10	20	13	22
民間伐採	(千 m <sup>3</sup> /年)	63	20	51	22	47	24
計	(千 m <sup>3</sup> /年)	71	38	73	60	84	82
	(千 m <sup>3</sup> /年)	109		133		166	

\*民間伐採：コミュニティ(集落)林業および大規模団地以外からの木材生産を計上

\*民間伐採の主伐が減少するのは、公共事業の減に伴う支障伐採が減る見込みのため

### ○コミュニティ(集落)林業の推進

効率的な施業地の集約化や、きめ細かな道づくりによる県産材生産量の増大を図るため、コミュニティ(集落)を活かした林業を進めます。

項目	単位	現在	5年後(H26)	10年後(H31)
実施集落数	(集落)※延べ	—	50	150
	(集落/年)	—	10	20

### ○間伐の推進

経済林としての価値を高めるほか、森林吸収源対策等に寄与する間伐については、コミュニティ(集落)林業などを通じ今後も適正に行います。

項目	単位	過去10年間実施	今後10年間 (H22~H31)
間伐面積	(ha)	43,000	52,000

## ② 県産材(主伐材)活用プロジェクト

### ○ふくいブランド材の生産

経費のかからない葉枯らし乾燥を推進し、製材所の協業化やストックヤードの整備により、天然乾燥材のブランド化を図り、生産量を増大させます。

項目	単位	現在	5年後(H26)	10年後(H31)
ふくいブランド材生産	(m <sup>3</sup> /年)	—	6,000	12,000

\* 製材品材積

\* ふくいブランド材：含水率や強度を明示した高品質な天然乾燥材

### ○地産地消の家づくり

森林所有者と工務店、製材所などが連携し地域の木材を使った住宅を提供する地産地消の家づくりを推進します。また、県産材を活用した住宅の新築・リフォームへの支援、伐採見学会などによる県産材のPRを通じて、住宅における県産材の使用率を高めます。

項目	単位	現在	5年後(H26)	10年後(H31)
住宅分野での県産材使用量	(m <sup>3</sup> /年)	41,000	45,000	54,000
住宅1棟あたり県産材使用率	(%)	27	37	45

### ○県産材のあふれる街づくり

県産材を活用した店舗・コンビニ・大型商業施設（スーパー等）、事業所の新築・リフォームの支援や、公共施設での活用により、県産材の利用を拡大します。

項目	単位	現在	5年後(H26)	10年後(H31)
店舗・商業施設の新築・リフォーム	(棟/年)	—	150	300
農業機械格納庫等の新築・リフォーム	(棟/年)	—	10	20
公共施設(学校等)新築・リフォーム	(棟/年)	—	10	10

### ③ 間伐材利用拡大プロジェクト

#### ○利益を出す間伐材

合板・集成材等の大規模工場への共同出荷体制の整備と、規格選別などにより出荷量を拡大します。

項目	単位	現在	5年後(H26)	10年後(H31)
大規模工場への 間伐材出荷量	(m <sup>3</sup> /年)	17,000	30,000	40,000

#### ○ムダなく使う間伐材

火力発電所での混焼や製紙用パルプ、新たな需要開拓などにより未利用間伐材の利用を拡大します。

項目	単位	現在	5年後(H26)	10年後(H31)
チップ、製紙用パルプ	(m <sup>3</sup> /年)	20,500	21,000	23,000
公共工事土木資材	(m <sup>3</sup> /年)	4,500	5,000	6,000
火力発電所での混焼など 新たな用途での利用	(m <sup>3</sup> /年)	—	2,000	8,000

### ④ 特用林産振興プロジェクト

#### ○ふくいきのこ売り込み作戦

シイタケ等きのこはマッチング商談会を行い、販路を拡大するとともに、越前カンタケは家庭栽培を中心に普及します。

項目	単位	現在	5年後(H26)	10年後(H31)
シイタケ生産量	(t/年)	320	385	415
カンタケ家庭栽培戸数	(戸)	1,300	2,000	3,000

### ○山の幸活用作戦

日本一の生産量を誇る越前オウレンは、製薬会社の求めに応じて供給できる基盤を整備し、市町と連携しながら後継者を育成します。ゼンマイなど山の幸について生産基盤の整備や後継者の育成、新ビジネスの創出をします。

項目	単位	現在	5年後(H26)	10年後(H31)
オウレン生産量	(kg/年)	200	500	1,000
ゼンマイ生産量	(kg/年)	370	440	550

## 2 環境林

### ⑤ 環境林整備プロジェクト

#### ○鳥獣から暮らしを守る森づくり

被害対策、個体数管理、生息地対策を関係部局が連携して総合的に実施します。森林内では、森林管理と柵設置を兼ねた管理道を設置します。また、奥山のスギ人工林で群状や帯状に伐採し、公的整備や企業の森を活用した植栽等による針広混交林化を図ります。

項目	単位	現在	5年後(H26)	10年後(H31)
ふくい型獣害対策管理道	(km)※延べ	—	20	60
山ぎわ緩衝帯	(km)※延べ	—	60 (H23 まで)	
山ぎわ間伐	(ha/年)	3,900	3,900	3,900
針広混交林化	(ha)※延べ	—	25	50

### ⑥ 緑と花の県民運動プロジェクト

#### ○ふっくりんポイント制度の創設

活動実績をポイント化し、民間企業の協賛を得ながら花と緑の活動が循環するシステムを構築し、継続的な県民運動の展開を推進します。

項目	単位	現在(年間)	5年後(H26)	10年後(H31)
ふっくりんポイント参加者	(人)※延べ	—	5,000	10,000
県民運動参加者	(人/年)	40,000	50,000	60,000